



学校だより

平成27年12月24日 第10号

さいたま市立大宮東中学校

E-mail omiyahigashi@saitama-city.ed.jp

キャッチボール

教頭 富田 敦

「ちょっとグラウンド見てよ」体育の授業でソフトボールが始まった時のことです。校長先生がこう言いました。校庭では1年生男子がキャッチボールをしています。その様子を見て、私たちは言葉を失いました。

そこには、ボールをしっかりと投げられない、グローブで捕ることができない、つまりキャッチボールがうまくできない男子が何人もいたのです。投げる時に、腕が砲丸投げのようになってしまう生徒、右利きなのに右足が前に出してしまう生徒、ボールが上に上がってしまい前に飛ばない生徒など、本当に男の子なの？と目を疑う光景がありました。投げるのがそんな状態ですから、捕るのも同様です。グローブをしている手だけでなく両手を使って捕ろうとする生徒や投げられたボールとの距離感がつかめずバンザイをしてボールを後ろにそらしてしまう生徒が続出です。

子どものころ、遊びといえば野球、というのが私たちの世代でした。友達が集まればキャッチボール、6人も集まれば2チームに分かれて三角ベース…プラバットにビニールのカラーボール、そんなものが私たちの必需品でした。隣のクラスと野球やソフトボールの試合をするなどという、一大イベントでした。

ですから、男の子がキャッチボールできないなどということは想像もできなかったのです。「この子たちの多くはキャッチボールの経験がないんだなあ、友達や大人とキャッチボールをしてこなかったのかなあ。」と思いました。私は父親に遊んでもらったことや旅行に連れていってもらった記憶はほとんどありません。しかし、父親と何回かキャッチボールをした記憶だけは残っています。父親の投げる球を受けて、思いっきり投げ返したような気がします。強い球を投げると、自分が成長した姿を見せられるような気がして、そのことでほめてもらいたくて…。

以前、国語の教科書に「一壘手の生還」(赤瀬川 隼 作) という作品が載っていました。戦死したことになっていた兄が終戦後、自宅に帰ってきます。その兄と主人公がキャッチボールをする場面が私の心に残っています。そこで主人公は、キャッチボールをしながら兄と会話しているような気持ちになってきます。言葉のキャッチボール、「心の会話」です。

また、キャッチボールの場面が印象的な映画があったことも思い出されます。最近では「ふしぎな岬の物語」の中で吉永小百合と笑福亭鶴瓶がキャッチボールをする場面です。吉永さんのキャッチボール姿がとても様になっていたことが印象に残りました。古くは、「フィールド・オブ・ドリームス」で主人公を演じるケビン・コスナーが父親とキャッチボールをする場面が心に残っています。「一壘手の生還」と同様に、単にボールを捕って投げる、という動作の繰り返しではなく、文字通り「言葉のキャッチボール」=心のつながり をイメージさせる表現であったと受け止めています。

キャッチボールは、単に投げやすいボールを投げるための自己満足のスポーツではありません。相手を見て、相手あまり経験のない人ならば優しくカーブしたボールを、経験豊かな人ならば切れ味鋭いボールを投げ込む…。相手との距離感を計りながらボールを投げ合うのがキャッチボールです。言葉のキャッチボールも同じです。キャッチボールは、言葉のやり取り、心のつながり、コミュニケーションにもつながるものです。

一つのテーブルを囲みながら親はスマホを、子どもはゲーム機をいじっていて言葉も交わさない親子を見ると、「外に出てキャッチボールでもしたら…」と声をかけたくくなります。

ソフトボールの授業もそろそろ終わる時期です。はじめのころに比べるとキャッチボールもずっと上手になって、ソフトボールを元気いっぱい楽しんでいる生徒の姿が校庭にあります。

学校教育目標

輝く命 生きる力

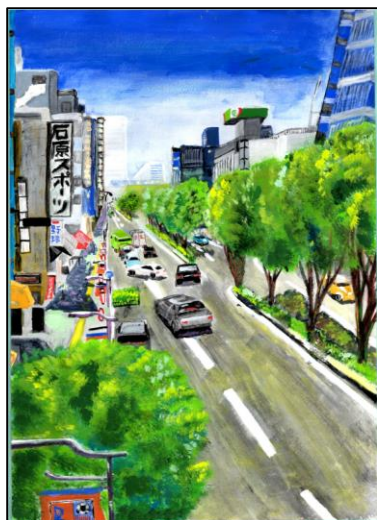
目指す生徒像

○たがいに鍛え、競う生徒

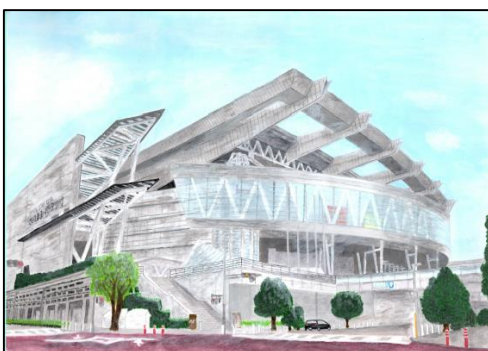
○たがいに結び、励む生徒

○たがいに求め、学ぶ生徒

さいたま市郷土を描く児童生徒美術展入選



樋口 百大（1年3組）『歩道橋から見た景色』「小学校のころ、登校する時に使っていた歩道橋からの見慣れた景色を描きました。車やビルなどの細かいところは大変でしたが、景色をそのまま絵にすることができてよかったです。」



對馬 涼太（2年2組）『シンボル』「光や陰を描くのが難しかったです。さいたまスーパーアリーナの窓の中の物を描くのも難しかったです。」



西田 早希（1年3組）『私の好きな場所』「私の好きな氷川神社の橋がみんなに伝わるように描きました。また自然も上手く表せたと思います。」

木村 木の実（2年2組）『自然がいっぱいの氷川参道』「自然がいっぱいあるところを、緑をたくさん使って表現しました。」



大宮区児童生徒美術展

入選【1年】瀬上 駿（1組） 齋藤 広呂海（2組） 友田 愛音（2組） 水野 拓未（3組）
 森田 静（3組） 渡邊 桃子（3組） 淡路 泰雅（4組） 玉山 寧桜（4組）
 淵山 隼平（4組）
 【2年】南 和花（1組） 小林 昌太郎（2組） 内山 祐菜（4組） 駒崎 千尋（4組）

さいたま市児童生徒作文コンクール

佳作 横山 法子（3年1組） 平野 晴菜（3年3組） 小林 櫻（2年1組）
 入選 高田 聖（3年3組） 大塚 翔太郎（2年3組）

上尾市選抜冬季ソフトテニス研修大会

女子ソフトテニス部 団体戦 第3位

図書館と県民の集い「ビブリオバトル」 白鳥 雄大（3年1組）



全県から中高生5名が参加しました。

市の代表として県の大会に参加してきました。高校生ともお互いを評価し合い、楽しみながら対戦することができました。満員の観客を前にしていましたが、自分も楽しんでいこう、思い切ってやっっていこうと思ったため、あまり緊張しませんでした。私は、発表にインパクトをもたせるために、強弱をつける工夫をしました。今回、高校生とも一緒に参加してみて、発表方法のさらなる工夫を知ることができました。ビブリオバトルは奥が深いと改めて思いました。ビブリオバトルに取り組んだことで自分自身のトークスキルが上がったと思いますし、この経験をこれからの人間関係づくりに生かせると思いました。

今年1年間、学校へのご支援、ご協力ありがとうございました。学校も教職員一丸となって教育活動に真摯に取り組んでまいりましたが、家庭や地域の皆様と連携を図ることで生徒もさらに成長することができました。来る平成28年もよろしくお願いたします。

・1月7日（木）第3学期始業式 ・1月8日（金）さいたま市学習状況調査、給食開始